2002年度　Ｂｌｏｃｋ．５

課　題　Ｎｏ．２

「意識障害の寺沢さん」

東京女子医科大学
'02.4.12
学事部

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意下さい。

2002-B5-2　意識障害の寺沢弘治さん

シート1

寺沢弘治さんは62歳の男性である。生来健康であったが、1年前の健康診断で初めて貧血の指摘を受けた。その時の検査の記録は、WBC 3500/μl、RBC 360X10^4/μl、Hb 12.0g/dl、Ht 34.8%、Plt 12.3X10^4/μlであった。

寺沢弘治さんは、親戚の医学生の山口さんに、この時の検査データについて相談した。山口さんは、貧血の程度が軽いので、鉄分の多い食事を心がけたらとアドバイスした。

【抽出を期待する事項】

貧血

汎血球減少

2002-B5-2　意識障害の寺沢弘治さん
シート２
　３日前から、つじつまの合わないことをことを話すのを家人が気づいた。昨日の夜から意識がなくなり、呼びかけにも反応しなくなった。本日意識障害のため、緊急入院となった。

入院時現症
vital　sign
体温　38.9 ℃、血圧 136/72 mmHg、脈拍　96/分　整、
呼吸数 22/分

全身所見
四肢、体幹部に点状出血、紫斑を認める。

局所所見
眼瞼結膜　貧血を認める。
眼球結膜　黄疸を認めない。
口腔　咽頭発赤あり。
胸部　心音　清。　肺　ラ音は聴取しない。
腹部　肝　1横指、　触知。

入院時検査所見
尿　蛋白（2+）、糖（－）
血算
　WBC　10900/μl（好中球 79%、好酸球 2%、リンパ球 12%、単球 7%）、RBC　162X10^4/μl、Hb 6.2g/dl、Ht 16.1%、Plt 1.3X10^4/μl
血液生化学
　T-P 9.9g/dl、Alb 1.8 g/dl、AST 26IU/l、ALT　17IU/l、LD　170IU/l
　BUN 66 mg/dl、クレアチニン　4.4 mg/dl、尿酸　12.7 mg/dl、
　Na　137 mEq/l、K 5.6mEq/l、Cl103 mEq/l、Ca 16.3 mg/dl、
　P 2.1mg/dl、CRP 18.3 mg/dl
凝固系検査
　PT　17.5 秒（コントロール　11.9 秒）、APTT　34.2　秒（コントロール　31.8 秒）、フィブリノゲン　78mg/dl、FDP 105 ng/ml
【抽出を期待する事項】
意識障害
出血傾向
播種性血管内凝固症候群
高カルシウム血症

2002-B5-2　意識障害の寺沢弘治さん

シート3

ただちに骨髄検査を行ったところ、骨髄では資料のような異常細胞が 89%を占めていた。異常細胞はペルオキシダーゼ染色陰性、非特異的エステラーゼ染色陰性であった。

【抽出を期待する事項】

多発性骨髄腫

2002-B5-2 意識障害の寺沢弘治さん

シート4

寺沢弘治さんは、入院後に生理的食塩水、利尿剤、抗生剤、輸血などを投与された。これらの処置で入院後3日目には、意識も回復した。また投与された輸血の種類は、赤血球製剤、血小板製剤、血漿製剤などで、投与前に輸血を行う必要性や副作用などの説明を家族が受けた。その後化学療法を受けたが、その際に必要性と副作用について説明を本人が受けた。主治医は診断名と治療法を、紙に書いて説明してくれ、その用紙を渡してくれた（資料5）。化学療法の副作用で、吐き気、脱毛などが出現した。化学療法のあと、インターフェロンの自己注射を指導され退院となった。

【抽出を期待する事項】

輸血

インフォームドコンセント

化学療法の副作用

シート５

免疫蛋白定量は以下のような結果であった。

IgG　7,660 mg/dl（840-1730）
IgA　36mg/dl　（59-368）
IgM　44mg/dl　（60-290）